

政令指定都市移行記念事業記者会見要旨

平成18年11月24日（金）午前11時から
新潟商工会議所中央会館 4階特別会議室

篠田 昭	新潟市長
上原 明	新潟商工会議所会頭
能登 剛史	新潟総踊り祭実行 委員会 副会長

● 説明

（篠田新潟市長）

政令市移行記念イベントについて、イベントカレンダーを元に説明する。

もう既に、始まっている事業もある。

例えば新潟市観光・文化検定。民間の力をお借りして実施している。今テキストブックがかなり売れていると聞いている。

オリジナル鍋もそうだ。服部幸應さんなどの力を借り、新潟らしいオリジナル鍋をつくろうと取り組んでいる。

政令指定都市になっていろいろなものに力をつけていきたいが、大きいのは、新潟市が交流人口をどれだけ増やせるかということだと思う。

いろいろな関係者からのご指摘として、新潟市の祭り・イベントなどが、全国から人をよぶという面で弱いのではないかという点がある。

また、合併により81万都市が誕生して間がなく、一体感をつくっていく上でも、イベント、記念事業が必要なのではないかという点もある。

それらを踏まえて市民からアイデアをいただき、それらを一部加工、統合しながらイベントカレンダーにまとめた。

2007年度をモデル年度として、新潟の元気・新潟の活力を全国にお伝えし、次年度以降、良いものは継続していく、そういう中で、新潟は春夏秋冬いろいろな形で盛り上がり、楽しい催しがいっぱいある、魅力ある新潟なんだと知っていただきたい。

私から主に市が関係する事業について、民間と行政、市民挙げて祝っていくことから、新潟市政令指定都市推進産業人会議の会長でもある上原さんから民間実施事業について、市民の立場から、新潟の市民団体として元気な活動を続けている新潟総踊り祭実行委員会の能登さんからと、今日は3人でお話をさせ

ていただく。

まず、私から、今年度の事業として、12月1日には、市のホームページ上で「新潟市イメージ館」がオープンする。8つの区それぞれの特徴ある風景の画像をダウンロードし、そのまま葉書サイズでプリントアウトできるので、住所変更用の通知や年賀状などにご利用いただける。写真だけでなく、地元のイラストレーター「木原四郎」さんの温かみのあるイラストもご利用いただける。

1月の上旬には、「シンボルマークの発表」を予定している。

2月1日には、「宝くじウインター・コンサート 三枝茂彰・羽田健太郎のおしゃべり音楽館」、2月28日からは、市内22流派による「いけばな展」が開催される。3月には、「政令市移行記念のエコーはがき」を発行する。

また、3月30日には、「祝祭コンサート2007」を開催し新しい門出を祝う。「田園型政令市」にちなみ、ベートーヴェンの交響曲第6番「田園」に始まり、「交響曲 第九 喜びの歌」を、市民と東京交響楽団との共演により高らかに歌い上げ、コンサートをしめくくる。現在、この市民コーラスグループの団員を募集している、よろしく願いたい。

また、29日から31日の3日間は、今年1月の上演で好評を博した「マクベス」を再演する。4月以降は国立能楽堂をはじめ全国各地で上演し、「政令市・新潟」の文化をアピールする。

新しい年度に入り、4月1日には、「移行記念式典」を開催するとともに、区役所や児童相談所など関連施設の「開所式」を行う。20日過ぎには、東京でも「記念式典」を行う予定である。

本市は、「田園型政令市」として、「食と花で世界に貢献する」ことを自らの使命とし、この使命の達成のため、「新潟から世界へ」という形で、「食と花のプレ・フォーラム」を2ヵ年開催したが、来年、いよいよ本番になる。6月1日からの「花のフォーラム」、10月24日からの「食のフォーラム」という形で、国際シンポジウムや国際会議、国際見本市などを開催する。

このフォーラムの一環として、4月中旬から5月上旬にかけ「1000万本のチューリップキャンペーン」として、「萬代橋チューリップフェスティバル」や「花絵コンテスト・花パレード」など、市民と一緒に賑やかに行う。またサミット誘致に共同で取り組んでいる横浜市で「にいがた花ジャック」を開催する予定である。さらに、花の写真家「秋山庄太郎 作品展」の開催など、「花」に関するイベントを大いに盛り上げていきたい。

郵政公社さんから「食と花の政令市にいがた」を題材とした「ふるさと切手」を発売していただくことになっている。

4月21日から、明治・大正・昭和初期の町並みや風景を写した写真展「写真の中の新しいいがた」を開催する。4月28日・29日には、多くの市民団体の企画による市民参加型の「祝祭イベント」で、政令市新潟の誕生を賑々しくやろうと思う。28日には、JRAさんで「政令市記念レース」を開催していただく。新潟市がお仲間に入る政令指定都市の市長会議「ローカルサミット」

を5月頃に開催する予定である。

そして夏、7月16日の「海の日」からは、「新潟みなと水遊記キャンペーン」を行い、「萬代橋誕生祭」や「信濃川フェスティバル」などの多彩なイベントと一体となり、多くの市民から「みなとまち新潟」の魅力を再発見いただきたい。

7月24日からは、20世紀の彫刻家を代表する1人である、弓をひくヘラクレスでお馴染みの「巨匠 ブールデル展」を開催する。

8月は、19日に「ジュニアオーケストラフェスティバル」や姉妹・友好都市の子どもたちから新潟に集まってくれ、「世界こどもサミット」を、「はばたけ21」の方々と一緒に開催する。

今、「ビュー福島潟」の名誉館長の加藤登紀子さんから、政令市誕生記念ということも含めて、新潟の水辺や潟を題材とした歌を作ってもらい、今度発表してもらいますが、それらを含めた政令市記念歌を、新井満さんや遠藤実さんなどからご協力をいただき、その記念歌の発表会を夏頃にやりたいと考えている。

秋までには、8区それぞれの「イメージカラー」を決め活用していきたい。

8月31日から9月2日までの3日間、市民からも参加していただき、「明和義人」のミュージカルを上演する。単なる公演にとどまらず、新潟湊町の先人・偉人である涌井藤四郎を検証する、そんな新潟湊町の原点を探るという取組をしたい。小冊子の配布や講座の開催、公演DVDの学校への配布など、広く市民から明和の義人たちを知っていただきたい。

9月23日からは、市内の美術館・博物館の美術工芸品のコレクションを一堂に集めた展覧会「アート・エキスポ にいがた」を民間のマスコミのご協力をいただきながら開催する。年明け2月頃に「区対抗の綱引き大会」を計画している。

3月には、「ふるさと」に対する思いをしたためていただく「ふるさとへの手紙」の表彰式を行う。新潟が日本のふるさとであり、心のふるさとであるということを知っていただき、そんな取組をやっていききたいと思う。

(上原商工会議所会頭)

私からは、民間サイドでの事業の概要についてお話させていただく。

まず、「新潟の創作鍋」。優秀部門賞及び優秀賞の選考を行ったところだが、11月28日に、都内で特別名誉賞の選考・発表を行う。特別名誉賞及び優秀部門賞の作品は、来年2月10日、11日に開催される「にいがた食 冬の陣 当日座」で販売する。

テキストが好調な売れ行きを見せている「新潟市観光・文化検定」。年明けの1月10日から受験申し込みを受け付け、3月25日に新潟と東京で試験を実施、30日に合格発表を行う。今年度は、3級のみ試験だが、来年度以降は1・2級の検定も実施する予定。

4月中旬から5月上旬にかけては、チューリップを素材とした各種イベントを組み合わせた「1000万本のチューリップキャンペーン」を実施し、「花の政令市」を盛り上げていく。チューリップ観賞のための、JR・シャトルバス・

ウォーターシャトルの乗り継ぎ自由な1日券「チューリップパス」を発行する。

おなじみの「にいがた花絵プロジェクト」、「みなとまち新潟花遊び」をはじめとする多彩なイベントを計画している。「とやの湖桜まつり」では、住民参加による「政令市誕生記念イベント」を盛り込むことを検討している。

私どもの最大のイベントである「新潟まつり」。8月3日から5日まで、金曜から日曜にかけての週末の開催で、より多くの市民が参加・見物しやすいように日程を変更し、政令市移行記念イベントや新たな取組を盛り込む方向で検討している。また、「日本海夕日キャンペーン」も、政令市誕生の新しい企画を盛り込むことを検討している。

また、「みなと水遊記キャンペーン」では、県・市などと連携して誘致した「帆船 海王丸」が寄港するほか、「水上タクシー」の運行をはじめ、「みなとまち新潟」を再発見するイベントを行う。

「食の陣」は、政令市移行を契機として、通年での魅力発信・誘客活動を展開することとした。季節にとらわれない内容の見直しとともに、来年は、記念事業の「にいがた寿司三昧」とタイアップし、より効果的な展開を目指す。

(市長)

現時点では発表できないものもあるが、民間の皆様からも多くのアイデアをいただいている。新潟伊勢丹さんの「政令指定都市「新・新潟市」誕生記念イベント」、東北電力さんの「あなたの街の音楽会」、新潟日報さんの「豪華客船飛鳥Ⅱによるクルージング」、サッポロビールさんの「政令市記念ラベル 缶ビール」などがある。

なお、明和義人のミュージカルは火坂雅志さんから執筆いただいているが、おそらく来年、大手の出版社から出ると思う。それを台本としながら、ミュージカルをどうやっていくのか、実行委員会で考えてもらう。

今日は、火坂雅志さんからメッセージをいただいているので発表する。

「私はいま、ふるさと新潟を舞台に、明和義人・涌井藤四郎の物語を執筆しています。北前船で栄えた港町新潟は、柳と堀に彩られ、三味線や樽きぬたの音色が響く活気に満ちた町でした。そこには、何ものにも縛られない港町独自の自由な気風が地下水脈のように流れていました。江戸時代の明和年間に起きた市民運動のさきがけ、明和騒動は新潟人のそうした精神風土が背景になった象徴的な事件と言えます。

この物語を通じて、新潟湊の伝統と心の再発見をしたいと思っております。

火坂 雅志 』

(能登総踊り祭実行委員会副会長)

来年、総踊りが関係するものは、大きく3つある。ひとつは、4月の「市民祝祭イベント」。市民参加できるような、踊りを主体とした祭りをしていきたい。

食の陣、花絵プロジェクトなどと連携していきたいと考えている。

ふたつめは明和義人。300年ほど前から、三日三晩踊り明かす祭りがあつたと、火坂先生のメッセージにもあつたが、北前船などの影響で、独特の華やかさ、盛り上がりを持っていた市民の力を、ミュージカルの中で市民の皆様に広く参加を呼びかけながら、一緒に表現していきたいと思う。

みつつめは、例年9月の下旬に3日間で開催している、今回は第6回になる新潟総踊り祭。政令市移行記念として、1.5kmほどの行列を市内で展開し、総勢2~3,000人の一般市民からの参加を募集し開催する予定である。

踊りは新潟の誇りであり、今後元気を表すひとつのキーワードになればなど考えている。私どものほかにも、いろんな団体の皆様がそれぞれの持ち場をもっともっと華やかにしながら、一丸となって、政令市移行記念に向けてできることをやっていきたいと思う。

(市長)

まだ固まっていないものもあり、今日の段階はアウトラインをお話して、年明け以降固まった段階で、補足で説明させていただきたいと思う

● 質疑応答

Q 1

市民ミュージカルについて、実行委員会形式とのことだが具体的には？

A 1

能登さんにも是非入っていただきたいが、市内の踊りや演劇に関心があり、ミュージカル的な舞台を運営できるノウハウをお持ちのからから入っていただくと思う。年内には第1回の実行委員会を開催すべく準備をしている。

Q 2

外部の劇団を入れずに、完全に市民でやるということか？

A 2

市民だけでなく、プロの力も借りる方向だが、実行委員会で検討してもらおう。

Q 3

火坂さんの本は依頼をしたということか？

A 3

書いてもらえばありがたいとは申し上げた。ただ、商業ベースの話なので、市から支援するというのではなく、出版社と火坂さんとの関係で、明和義人で本を書こうと決めていただいたと承っている。

Q 4

今回のイベントのキーワードと趣旨を簡単にご説明願いたい。

A 4

基本的には、新潟の元気を全国に伝えることだが、にいがた政令市のキーワードとして、食、花、そして踊り文化で表現できるのではと思う。これまでは新潟というと新潟県として全国で捉えられているので、新潟県と同じ良いものも持っているけど、また新潟県と違う新潟市もあるということを、政令市がスタートするときできるだけ多くの人に知っていただきたい。

そして、これからは交流人口を大きくできない地域は、なかなか発展が難しいと思う。もちろん、経済の活性化が大きい訳だが、新潟のまちの魅力、そこに住んでいる人の魅力、それから食、花、踊り文化の魅力をしっかり伝えていくことが新潟の交流人口の増加につながるのではないかと思う。

Q 5

交流人口の増加には期待してもよろしいか？

A 5

首都圏にも近いので、これが交流人口を増やすひとつのポイントだと思う。今、サミットを通じて横浜市と友好が強まっているので、横浜市360万人とどういったパートナーシップが作れるかということをお願いしている。横浜で花ジャックをやるのもこの一環で、横浜で一番魅力のあるエリア、赤レンガ倉庫を使わせていただく予定である。

Q 6

具体的にはどれくらい交流人口が増えたらよいと考えているか？

A 6

まずは81万市民がそれぞれの魅力を確認することも今の段階ではまだ重要だ。先日、新潟県内の各市町村別の交流人口が発表された。本市は県内で1/3の人口を持っているが、その割合からいけばまだまだ少ない。市町村別では圧倒的にNo.1ではあるが、そういう部分では、3分の1に近づくくらい頑張っていきたいと思う。それと、全国から、あるいは北東アジアを中心とした世界から人が呼べる、そういう新潟になっていきたいという部分もある。食・花・踊り文化という三点セットでいけば新潟市の個性は相当だせると思う。